
勇者(ユウシャ)

津田花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ユウシャ
勇者

【Nコード】

N7114E

【作者名】

津田花

【あらすじ】

勇者が魔物から世界を救った。これは、その勇者が勇者になる前の話。

（前書き）

突然光臨してきた話です。

近年魔物がこの世界を蝕んでいる。

人間の肉を食らい、血を飲み干し、町を消す。

どこかのクソ迷惑な奴が魔界への扉を開いたらしい。

奴は自分の欲望を満たすための道具として呼び寄せた物に食われ、閉じ方を忘れられた扉は魔物が湧き出ている。

「頼む！この村ではお前しか出来無いんじゃない。」

「断る。」

俺は人間が嫌いだ。

その点では魔物の方が人間を好んでいるだろう。
食料としてだが。

「孫は……リテロはこの村の最後の娘なんじゃ。このままでは村が滅びる。」

リテロは俺が人嫌いとしりながら、やたらと関わろうとする女だった。

「かまわない。魔物も食料が無くなればいずれは滅びるだろう。」

最も、リテロはまだ生かされている可能性は高い。

話によると、魔物は人間に卵を産みつけ、孵った子どもは人間を食い破って出てくる。

産みつけられる人間は肉の軟らかい女か子どもと決まっているそうだ。

「剣を扱える者は城下から来たお前だけなんじゃ！報酬は必ずする。この命を持って約束する。」

「考えさせてくれ。魔物の産卵期までにはまだ時間がある。」

俺は村長に背を向け、家を後にした。

「分かった。だが有余は明日の朝までじゃ。」

背中に土産の一言をぶつけられた。

まったくせつかちなじじいだ。

俺にだって都合って物がある。

第一なぜ新参者の俺が村を守らなくてはいけない？

俺の良く知る単純バカのあいつなら間違はなく自分の正義を振り

かざし、勇敢につとめを果たすだろう。
だが俺は奴ではない。

報酬だつてどうだ？
命に比べれば大したものじゃない。

そうこう考えるうちに家に着いた。
助けに行かないとなれば村には居られないな。

「荷造りでもするか。」

とは言っても俺の生活必需品は少ない。
剣、水袋、かつての家族の写真。

「ん？なんだ？これは？」

女の腕輪だ。
これには見覚えがあるな。

「リテロ。」

確か以前一度だけ、”男の一人暮らしはろくな物を食っていない”とかほざいて夕食を作りに来たな。
たいした料理じゃなかったが、俺の作る物よりは旨かった。

その時に料理にじゃまだと腕につけた装飾をとっていたな。
この村では腕輪は魔除けとされ、身に付けている人間が目立った。

リテロがさらわれたのを見ると効き目はなさそうだが。

そういえば強い魔除けだからやると言っていたな。
俺が魔物と戦う時に守ってくれるだろうと。
それがこれか。

俺は試しに以前狩った魔物の角を近づけてみた。
ただの好奇心だ。
魔物の角は武器の材料として重宝される。
それほど堅く頑丈な物だ。

「切れた!？」

いや、違う？

角に傷をつけた腕輪をまじまじと見ながら角を持ち上げた。

「嘘だろ!？」

もろくなった角が粉々に砕け散った。

「こんな物を俺に？」

魔物から身を守れないのはお前の方だろう！？
人を気遣うのも大概にしろ！

「くそっ！だから人間は嫌いなんだ！もっと自分のことを考えろ！」

俺は自分のためにリテロを救うことに決めた。

（後書き）

ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7114e/>

勇者(ユウシャ)

2010年12月16日14時37分発行